

新統計NTA/NTTAの 政策・研究利用の最前線

～「世代間の支え合い」を見える化する～

高齢者が増加する一方で子どもの数は減少し、働き手である現役世代への負担が増えています。こうした中で、私たちはどのようにして世代を超えた支え合いを実現できるのでしょうか？

高齢化への対応は、わが国のみならず、今世紀における世界共通の課題となっています。世界が高齢化の時代を迎える中、国連による支援の下、新たに開発された経済統計体系が「国民移転勘定(National Transfer Accounts:NTA)」及び「国民時間移転勘定(National Time Transfer Accounts:NTTA)」です。

NTA及びNTTAの概要は裏面をご参照ください。

本セミナーでは、少子高齢化時代に誕生した新しい統計であるNTA及びNTTAについて、その概要を解説するとともに、NTAの政策活用を担う実務担当者やNTAの開発・応用に関わってきた研究者を国内外より招へいし、政策活用事例やこれまでの研究から得られた知見を報告していただきます。セミナー最後のパネルディスカッションでは、当日の全報告者が、NTA/NTTAを活用していく上での課題や今後の発展可能性について議論します。

エビデンスに基づく政策立案及び少子高齢化による社会・経済の変容を分析するツールとして、NTA/NTTAを広く活用していくためのヒントを得る絶好の機会となります。ぜひご参加ください。

2024年12月3日(火) 11:20～17:35(開場11:00)

参加費
無料

ハイブリッド開催

会場受講80名

+ オンライン配信

【会場】日比谷スカイカンファレンス

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目1-1 日比谷フォートタワー 11階

日英同時通訳

日本語字幕

託児サービス



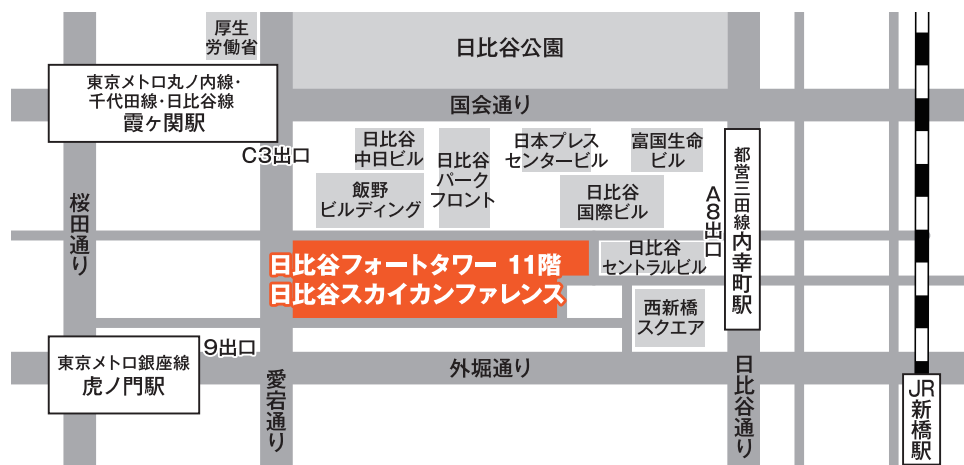
国立社会保障・人口問題研究所
National Institute of Population and Social Security Research



日本大学人口研究所
NIHON UNIVERSITY POPULATION RESEARCH INSTITUTE (NUPRI)

11:20~11:25	開会挨拶	林 玲子 国立社会保障・人口問題研究所 所長	
11:25~11:50	趣旨説明 少子高齢時代の新しい統計NTA/NTTA	NTAやNTTAとは何か、それは政策立案や研究にどのように利用できるのか?ここでは、NTA及びNTTAの概要を解説し、国立社会保障・人口問題研究所より公表されたNTA/NTTAデータについて紹介する。また、超高齢社会日本におけるNTA/NTTA活用の必要性について述べ、今回のセミナーの狙いと意図を説明する。	福田 節也 Setsuya Fukuda 国立社会保障・人口問題研究所 企画部室長 同研究所「NTAプロジェクト」リーダー。結婚、出生、性別役割分業、世代間移転等の研究を通じて、人口減少社会における家族、ジェンダー、世代間関係の変容を研究。
11:50~12:40	基調講演 世代間経済を理解することの重要性 Q&A:質疑応答の時間を用意しています	NTAプロジェクトは、将来的な人口動態の変化とその経済的影響に対する懸念を背景に、20年以上前に始まり、以来、世代間経済を分析するための新しいツールを開発・応用してきた。本講演では、世代的視点から経済を理解するために用いられる基本的な概念を示し、急速な高齢化の経済的影響を評価するため、いかに活用できるのかを紹介する。	アンドリュー・メイソン Andrew Mason ハワイ大学マノア校経済学部 名誉教授 NTAの創設ディレクターのひとり。専門は人口経済学。人口転換が経済発展に果たす役割や、高所得国の人口高齢化が経済成長や公的財政に与える影響等をNTAを用いて分析。
休憩(1時間)			
セッション1:NTA/NTTAの政策利活用			
13:40~14:00	報告1 社会的包摂性と持続可能性: 国連における開発アジェンダとNTA	国連は、経済、社会、環境政策を導く測定フレームワークを通じ開発アジェンダを形成してきた。1950年代には国民経済計算マニュアルを作成、現在はNTAマニュアルに	発展している。持続可能で包摂的な社会の実現には、新たなフレームワークが必要になる。本報告ではNTAの改良に向けた新たな取り組みを紹介する。
14:00~14:20	報告2 経済学による政策のエンパワーメント: アジア・太平洋地域における国連人口基金とNTA	国連人口基金(UNFPA)は、アジア太平洋地域においてNTAを活用して、世代間経済に関連する経済政策や社会政策を分析・強化している。本報告では、NTAデータの利	用事例を例示し、各国政府がこの手法を制度化し、意思決定に役立て、世代間の公平性を促進し、持続可能な開発を行うために実施している支援活動について紹介する。
14:20~14:40	報告3 タイ王国におけるNTAの政策活用事例	タイ王国は、過去10年間に急速に高齢化社会へとシフトし、社会経済的な影響が生じている。急速な人口構造の変化に対応する適切な政策を策定するため、政府内で	NTAを開発、制度化している。本報告では、タイ政府におけるNTAの開発プロセスを紹介し、政策の策定過程でNTAがどのように活用されているかを解説する。
休憩(20分)			
セッション2:NTA/NTTA研究の最新動向			
15:00~15:20	報告4 NTAのネットワーク・研究・応用: その達成、挑戦、そして可能性	過去20年にNTAネットワークは急速に拡大した。2003年の7か国から2024年には約100か国に達するNTAの急速な普及の要因とともに、政策面で活用していく上での挑	戦について解説する。さらに、NTAが財政の持続可能性、世代間の公平性、経済成長、高齢者の生活保障などの分析に有用であることを紹介する。
15:20~15:40	報告5 日本におけるNTA研究の概要: その歩みと知見	日本の研究者はNTAプロジェクトの開始当初から、NTAの開発や普及、応用研究に尽力してきた。本報告では、NTAの立ち上げメンバーの1人で、長く日本のNTA研	究をリードしてきた松倉教授より、日本におけるNTA研究の経緯、及びこれまでの研究で明らかになった高齢化の帰結に関する研究知見を紹介する。
15:40~16:00	報告6 国民時間移転勘定NTTA: 概要と10年の経験からの教訓	NTTAの方法論は10年以上前に開発され、現在では30か国以上からの推計データベースがある。本報告では、NTTAの方法論の概要を説明すると同時に、人的資本の	開発、女性の労働力参加、高齢者介護の提供、そして「女性の仕事」の価値を巡る意識の変化などケア経済に関する重要な教訓が得られることを紹介する。
休憩(20分)			
16:20~17:20	パネルディスカッション NTA/NTTA利活用における課題と可能性について	本セミナーの講演・報告者によるディスカッション。各報告からの知見を総括するとともに、NTAの政策、研究の両面から利活用する際の課題や今後の発展可能性、さら	には日本におけるNTA/NTTA利活用の方向性について議論を進める。 モデレーター:福田 節也
17:20~17:35	閉会挨拶		

アクセス



- 東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線 霞ヶ関駅 C3出口 徒歩2分
- 東京メトロ銀座線 虎ノ門駅 9番出口 徒歩3分
- 都営三田線 内幸町駅 A8出口 徒歩3分
- JR新橋駅 日比谷口(SL広場) 徒歩8分

参加登録方法

セミナーHP(<https://www.ipss.go.jp/seminar/j/seminar29/index.html>)からお申し込みください。

託児サービス(無料)は11月8日(金)までに事前申し込みが必要です。



NTA(国民移転勘定)/NTTA(国民時間移転勘定)とは

少子高齢化・人口減少に直面し、社会保障負担が増大しているわが国においては、現役世代の所得を子ども世代と高齢世代にどのように配分していくのかは、次世代の育成、現役世代のWell-being、そして高齢世代の生活保障に関わる最重要課題であるといえます。

NTAは、高齢化が社会保障や世帯における所得移転に与える影響を解明するため、近年、国連による支援の下に開発された加工統計です。年金・医療・介護といった公的領域における所得移転、及び家族・親族間の私的領域における金銭的な所得移転について、その支払いと受け取りの金額を性、年齢別に明らかにすることができます。

NTTAは、世帯における家事、育児、介護など、金銭的なやり取りを含まない無償労

働時間の移転を金銭換算し、その支払いと受取りの金額を性、年齢別に計算したものです。

NTAやNTTAデータを継続的に公表していくことにより、公的・私的な領域における世代間・ジェンダー間の移転の大きさやその変化を正しく把握することが可能となり、少子高齢化あるいはそれに伴う各種の政策変更が、個別の社会保障制度の持続可能性や公私の2つの領域における世代間の公平性に与える影響を客観的に評価・分析することができます。

参考:『社会保障研究』(2019年)第4巻第2号「特集:社会保障政策の評価手段としての国民移転勘定(NTA)」

URL:<https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/sakuin/kikanshi/0402.htm>